

# 八雲 紫

(やくも ゆかり)

能力：『境界を操る程度の能力』

所属：八雲一家(旗揚げ戦~)

## ファイトスタイル

### 最強にして遊情なスキマ妖怪

一見パワーファイターと思われがちだが実は投打極バランスの取れたトータルファイターであり、元来の能力をフル活用すると相手を圧倒してしまうに過ぎない。

それ故パワープレイ、一方的虐殺に見られてしまう試合展開も少なからず存在するが、総合的に抜きん出たバランス型のレスラーである。

東プロにおいて、新人の育成や飛躍への壁として快く胸を貸しだすことのできる数少ない選手。

基本的には興行そのものを楽しむスタンスで、勝敗に拘る事もほとんどない。

が、個人的な怒りに触れてしまうと殺人技で叩きのめされてしまうという、恐ろしくも気まぐれな面も併せ持っている。

ただし、一方で粘りには弱いような、そんな一面もある。本人の性格だろうか。

## 光と闇の綱目

相手の頭を両腿で挟み、腕を逆にロックして持ち上げ、相手の前面全てをマットに叩き付ける。ダブルアームスープレックスとは違い前に落とす非常に危険な技。

事実、この技を受けた美鈴、小町、椋の三選手を失神KOしているのを始め、

この技で葬られた者は多いという、紫の代表的なフィニッシュ技である。

オリジナルは山川竜司(大日本プロレス)、葛西純(フリー)のリバース・タイガードライバー。

技名は、東方妖々夢で使用したスベルカード、『結界「光と闇の綱目」』より。

## 53歳

サイドに抱える垂直落下式のブレンバスター。

オリジナルは天龍源一郎。毎年加算されるはずだが、現在は53歳で打ち止めになっている。

東プロでの命名は初披露試合での実況早苗であったが、技名に他意はないはず。

早苗は「妖怪で53歳は相当若い方では」、とうそぶいている。

## 八雲回転蹴り

八雲一家の住人ならば使えなければならない技。

きりもみ回転しての跳躍による全体重を乗せた浴びせ蹴り。

八雲一家内では最も恵まれた体格を利用した、重い一撃となっている。

ロープワークからの攻撃や、ミドルキックとのコンビネーションとしても使われ、命中率も群を抜く。

最近橙もこちらのタイプを使用することがある。

## ファイヤースターズブラッシュ

シューティングスターの要領で正面を向いたまま跳ぶ450度回転捻りムーンサルトプレス。

バク宙しながら前へ跳び、さらに一回転以上、おまけに横にも捻って相手の体をプレスする。

原型となったシューティングスターとフェニックスの時点で相当の難技である以上、

双方の要素を抽出したこの技の難易度は推して知るべし。

幻想郷広しといえども紫にしか出来ないであろう。

ちなみに、元はレミリアの不夜城レッドのオリジナル、エッフェルドパラシュートと同じく、ファイプロオリジナル技である。

## パラダイスデス、ロック

相手の両手両足を一箇所に折りたたんで丸め、うつ伏せにして背中にまたがり足首を絞め上げるジャベ、重鎮の必殺極め技。八坂神奈子など重量級の選手もタップさせた

説得力のとても高い技となっている。

原型はミラノコレクションA.T.のパラダイスロック。

天国、パラダイスです。(罪袋：談)

ちなみに元ネタは、東方緋想天での紫のセリフより。

## 四重結界

霊夢とのタッグ以降、極稀に使う事がある特殊な技。

ムーブは夢想封印と一見同じだが、重心移動で相手を決める霊夢とは異なり、純粋なパワーでフォールへ持ち込む形となっており、当然ながら威力は抜群。

しかし他人と同じ技で試合を決めるのをよしとしていないのか、ビッグマッチになるほど

使用されない傾向が強く、特に霊夢がヒールターンし、対立関係になった後は、まったく使われなくなっている。

技名は東方萃夢想や東方永夜抄で使ったスベルカード『境符「四重結界」』より。

## 殺しNo.3

第23回大会第3試合にて披露された、八雲家秘伝の合体技の1つ。

タッグパートナーが相手をジャーマンスープレックスの体勢に捕らえ、そのパートナーを紫が相手ごと反り投げる二段階式の投げ捨てジャーマン。

当然ながらパートナーも相手の体を支えつつ投げられるので結構な負担がかかる。

オリジナルは新崎人生&アレクサンダー大塚の『眉山』。

名称の元ネタは親子ギミックを持つ佐々木健介&中嶋勝彦による同型技『鬼嫁殺しNo3』。

『鬼嫁』は健介の妻で2人のマネージャーである北斗晶の事と思われる。

こちらで鬼嫁の部分が伏字になっているのは、文が実況でとんでもない言葉を口走ったため。

## ドラゴンズ・レイ

コーナーを背にした相手に向かって走りこみ、カウンターで投げられた反動でポスト最上段に飛び乗り、後ろ向きのまま相手に飛び移ってウラカン・ラナを決める。

レイ(Lei)は首飾りのこと。つまり「龍の首飾り」だが、この技をあの姫様はどう思うか…。

オリジナルはドラゴン・キッド(DRAGON GATE)。

## その他使用技

殺人フランケンシュタイナー、雪崩式タイガードライバー、スベル・ラナ(プリンセステンコーの原型)

高角度タイガースープレックス、Yエッジ(早苗ボトムに捻りを加えた技)など

896(読みは「ヤクモ」、7回にて披露。ミステリオの619)

技の数々が的確に相手を追い詰めていく、重鎮ならではのじっくり攻略していく様が見所である。

## 戦績

[部分編集]

+ 全戦績 -ネタバレを含むので注意-

## タイトル歴

なし。

## 人間関係

### ▶ 幽々子

(旧来からの親交あり。東プロの現場監督同士。直接対決では会場が割れんばかりのコンテンダーマッチとなった。)

### ▶ 八雲藍,橙

(八雲一家組。タッグ・ユニットを組む事が多い。藍は紫の式神)

### ▶ 博麗霊夢

(初代LTWトーナメントにおけるパートナー。かつての盟友だがGM軍に堕ちた今では、自らの手で制裁を加えんと、八雲家が動き出すも、返り討ちに遭った形となる)

### ▶ GM天子

(数々の暴挙についに宣戦布告。スキマ送りを宣言するも、逆にケに敷かれてしまう)

## 入場曲

ネクロファンタジア

## 評

[部分編集]

## 現場監督『八雲紫』 旗揚げ大会～

東プロ旗揚げ時からの参戦組にしてスキマ妖怪。

外界のエンターテインメントプロレスをも熟知しており、東プロの興行自体を楽しんでいる。

当人の言動からは真剣さは見えないが、結果としては現場監督としての新人育成にも取り組んでいる重鎮である。

東プロリングへの登場は、第3回興行の第1試合。

美鈴五番勝負の第2戦目となるこの試合、対戦相手はXとされており、初戦の相手がExボスである妹紅だったため、

それ以上の相手はそうそういるまいと余裕を見せていた美鈴だったが、そこで場内に鳴り響いたのは『ネクロファンタジア』。

そして試合は予想通りというか予想以上というか、終始試合をコントロールした紫が、とどめに「光と闇の網目」を炸裂させ、

美鈴は失神KOという結果に終わり、スキマ妖怪の実力を集まった東プロファンの目に焼き付けた。

その後、霊夢とタッグチーム「結界少女」を組んでLTW初代王者トーナメントに出場するものの、

2回戦で、後の初代王者となる「スカーレット家」と当たり、フランの「スターボウブレイク」を受けて敗れてしまった。

敗北後、正規軍～博麗神社のトップとして軍団抗争に忙しくなった霊夢とは組むことも無くなった。

これ以降、レスラーとしての紫は八雲一家のトップとして、状況に応じて若手に胸を貸す、いわゆる「超えるべき壁」としての役割が多くなる。

一方では現場監督として、魂魄妖夢の斬撃五番勝負!を取り仕切るなど、どちらかといえば裏で暗躍することが多かった。

また、この五番勝負のときにレフェリーの資格を取っており、以後はレフェリーとして試合を裁く姿も見られるようになった。

このようにリングの内外で多忙だったこともあり、タイトルマッチには自ら積極的に参加する意思を見せることはなかったものの、

親交の深い幽々子がLSW挑戦表明した際にはこれに応じて挑戦を表明。

ここに伝説の頂上決戦東プロ怪獣大決戦が決定し、旧来のファンが大喝采を揚げた。

頂上決戦には敗れたもののその存在感の強さは揺るがず、熱狂的ファンが非常に多い選手の一人である。

リングに上がる選手としてだけではなく、実況解説席にゲストとして招かれることも多い。

また、前述の通り、数少ない東プロのレフェリー資格を保持している選手でもある。

同時にマッチメイク、特にイベントマッチではアングルに対する強い決定権も発揮しており、

一部決定が東プロ全体の流れを変更してしまう事もある程度のその待遇は、まさにカリスマである。

起動した最後の幻想。だが... 第33回大会～第35回大会

スキマ再起動 第36回大会～

[このページを編集](#)